

祝園はふその〔稲八間いなやづまの東南にあり、民居大和街道の東西にあり。祝園はふそのの名義は、神武天皇の御宇逆臣長髓彦を滅し給はん

とて、泉川いづみがはを隔て御軍あり、今の木津川きづがなり。竟に此所に於て討亡し給へり。長髓彦ながすねひこの霊こゝに止つて土民どみんを悩す、故にその霊を祀しかば忽ち鎮り安泰となる、霊を祝ひ鎮るの義なるによつて名とせり。園そのは其祭る社地しゃちをいふなりと。云々〕

〔此所の民俗、毎年正月初めの申の日より亥の日に至るまで神事をなす、其体食物を調ふるにも、一切の物音を禁じ静に居するなり、これを居籠いろうといふ。又同郡平尾綺田ひらを かはだにもこれをなすなり。此例摂州西宮にしのみやにもあり、毎年正月九日蛭子ひるこ尊広田社みことひろたへ臨幸の時、容相の異なるを恥給ふとて、村民門戸を閉て慎み斎す、是を忌籠いろうの神事といふ。予が著す須磨明石名所図会すまあかに委し。此所も則ち斎籠いろうなり、神事に潔斎し閉籠いろうるをいふ、いにしへより所の風俗なり〕

祝園社はふそのやしろ〔今詳ならず。三代実録じつろく曰、祝園神はふそのしんに従五位上を授くと。云々〕

春日社かすがのやしろ〔同所民居の北にあり。祭神春日大宮さいじんかすが おほみや、土人生土神どにんうちしんとす。例祭は九月廿日なり。一説此社祝園神はふそのしんなりとぞ〕

大塚おほつか〔春日社かすがの西一町ばかり田の中にあり。由縁詳ならず、高五間巡十三間あり〕

士師はせ〔村の名とす、祝園はふそのの南一里にあり。いにしへ此地つちざいに士師いくしありける歟。又士師はせ氏の人居する所か、決せず。土人師じんしをぜと称ふ。士師はせは天穗日命あまのほのひのみこと十四世の孫野見宿禰のみのすくねに此姓を賜ふ、其後天応元年宿禰すくねの後胤遠江介古人こういんに至つて、姓を改て菅原すがはらとなせり〕

相楽さがら〔所の名とす、則ち相楽郡の内なり。此所当国坤の堺なり。士師はせの南三町許に山城大和の国堺あり、大和の歌姫ひめに至る〕

木津川きづがは〔いにしへは呼津加和こつかはと訓ず、一名泉川いづみ、あるひは輪韓川わからともいふ。上古は挑川いどみとなづく。日本紀曰、那羅山ならを避て輪韓川わからに進み到りて、埴安彦はにやすひこと川を狭んでこれを屯し、おのく相挑み戦ふ故に、時の人其川を改めなづけて挑川いどみといふ。今泉川いづみといふは訛なり。云々〕

古 今 みやこいで、けふみかの原泉河いづみがはかは風寒し衣かせやま 読人しらず
千 載 泉河水いづみがはの見わたのふしづけにしはまの氷る冬は来にけり 藤原仲実

泉川橋いづみがはほし〔上古橋あり、延喜式出〕 樺井渡かほりのわたり〔泉川いづみのわたしをいふ、延喜式出〕

大智寺だいちじ

〔木津きづの大路のひがし二町にあり。宗旨律にして、本尊文殊菩薩もんじゆぼさつ、又腹内に春日かすがの作の同尊を蔵む。当寺はむかし泉川いづみの橋破壊して後、橋柱水底に残り年久しくして時々光を放つ、此里の住人橋たちほなの次郎太夫守安もりやすといふ者これを採て家に収め、海修山寺かいしゆせんの慈心上人じしんに此旨を語る。上人大に賞歎して遂に寺を造らしめ、其靈木を安置す。則上人を開祖とし橋柱寺けうちうじとなづく。後世に至つて文殊尊もんじゆそんを本尊とし大智寺だいちじと改む〕

誓願寺せいぐわんじ

〔大智寺だいちじの南三町許にあり。律宗にして、本尊十一面観音は行基ぎやうきの作、立像二尺。脇壇わきだんに地藏尊ぢざうそんを安ず、小野篁をの、たかむらの作、坐像二尺。伝云、当寺は聖武帝しやうむていの御願にして、持戒の尼を棲しめ給ふとなん。是則光明皇后くわうみやうの御願、日本一州一寺の国分尼寺こくぶんにじなる歟〕

動観音ゆるぎくわんおん

〔木津きづの南二十町許いちの坂さかにあり。本尊千手観音立像せんじゆくわんおんりふざう五尺許、動観音ゆるぎくわんおんと称する事、説々ありといへども、信

荒神石くわうじんせき〔堂前だうぜんにあり〕